

[課題演習概要]

社会的事象に関心を深める社会科学習

—思考体力を活用した活動を通して—

枇杷 かなえ

Kanae BIWA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

初等教育高度実践力特別プログラム

(2024年1月10日受理)

キーワード：社会的事象, 思考体力, 自己駆動力, 場合分け力, 多段思考力, 大局力

1 研究の目的

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会科編では、社会的事象の意味や相互の関連に着目し、社会にある課題の解決に向けて考えることが求められており、社会的事象に対して視点や方法（考え方）を用いて関りを深めていく必要がある。澤井ら(2017)は社会的事象への見方・考え方を働かせて考え、理解することのできる子供は、社会に見られる課題やこれからの自分について考えることができるとしている。

そこで本研究では、単元構成に思考体力(西成2021)を位置付け、様々な選択・判断を通して自分の考えを持つ中で、社会及び自身の生活とのつながりや関係性を考え続け、社会的事象への関心を深めることができる社会科学習をめざす。

2 研究の計画

思考体力の分析と単元構想への位置付けを行って、授業実践及び分析を行うことにした。

3 研究の内容

(1) 研究の概要

①思考体力

思考体力とは、次の様相をもったものである。

○自己駆動力：能動的に考え、自ら疑問や課題を見つける力  
○多段思考力：観点を変えたり物事を分解したりして新しい見方を追究する力  
○場合分け力：細分化した情報を見直しながら分類・整理をする力  
○大局力：分解したことをまとめたり全体を俯瞰してみたりする力

思考体力を養い、活用することは、段階を踏みながら思考を拡大・深化させ、子供が考え続けていく姿勢を育むことができるようにする点において意義がある。

本研究において思考体力を位置付けた単元構成を行い、社会的事象に関心を深めることができる授業づくりを行っていく。具体的には、社会的事象を明らかにしたいという思いをもつために自己駆動力を活用した学習問題を設定する。次に、課題解決に必要な情報を選択・判断し、自分の考えをもつために場合分け力や多段思考力を活用する。さらに、社会と自分の生活との関係を明確にしていくために大局力を活用する。

このような視点を活かして、単元構成モデルを構想し、A市立B小学校第5学年の31名を対象に授業実践を行った。

②授業実践

単元「情報を伝える人々と私たち」

段階	時	思考体力	学習内容・活動
導入	1	自己 駆動力	①情報メディアの伝え方を比較して学習問題を設定する ・メリット・デメリット ・手段、伝え方・共通点、相違点
	2		【学習問題】 情報が伝えられるまでの方法について調べ、それぞれのよさを伝え合おう。
展開	3 4 5 6	場合 分け力 ・ 多段 思考力	②テレビ又は新聞を選択し、それぞれのよさを調べ、プレゼンを作成する。 ・情報収集(ネット、教科書)を行う ・プレゼン作成(一人1プレゼン)
終末	7	大局力	③テレビや新聞のよさを発表する。 (4人グループでプレゼン発表) ・関わる人、仕事内容や工夫、思いや願い ④まとめ・振り返り

### a. 【自己駆動力】1・2 時間目

テレビと新聞の情報の伝え方の違いを捉え、そこに関わる人々の仕事内容や工夫、思いについて各自が知りたいと思うことから学習問題を設定し、意欲的に学習に取り組ませることをねらいとした。テレビと新聞を実際に見せ、それらのメリット・デメリット、共通点と相違点を調べるなど、子供自身が情報の伝え方の違いを捉えることができる活動を設定した。その結果、同じ仕事内容や人物に着目しながら、テレビや新聞を比較している記述が多く見られた。

どちらも情報を集めていることは同じである	30 人
どちらも大勢で取り組んでいる	26 人
どちらも記者や編集者がいる	14 人
どちらも打ち合わせや会議をしている	20 人
伝えられる量や時間が違う	24 人
伝える方法が違う（映像と紙）	21 人

このことは、知りたいと思ったことから学習問題を設定し、よさを伝えるための次時の活動へつなげることができた点において有効であることを指摘できる。

### b. 【場合分け力・多段思考力】3～6 時間目

調べ活動を通して、テレビや新聞のよさを感じたり、関わる人の思いや工夫を捉えたりすることや、自分で情報を取捨選択してまとめることができるようになることを意図した。教師がプレゼンの手本を示し、関連サイトをまとめたものや、よさを伝える上でのポイントをまとめたものも提示した。



【図1】よさを伝えるポイント

図1は、よさを伝えるための5つのポイントをまとめたものです。全体を見る、分ける、1つを細かく見る、他と比べる、まとめるの5つのステップが示されています。

(図1)

- C1：図2のように調べていったらよさそう。  
C2：分かりやすくて、ラジオのよさが伝わってきた。  
C3：私もこんなプレゼンをつくってみたい。

実際にプレゼンのモデルを示したことで、上のような児童の反応が見られ、意欲的に活動に取り組む手立てを講じることができた。また、関連サイトの提示により、効率よく調べることができていた。図1を提示した結果、調べて分かったことから伝えたい情報を分けたり、着目した人物からテレビや新聞の全体のよさを見つけてまとめたりしている子供の姿が見られた。

このことは、子供たちが自分で情報を場合分けし、得た情報をもとに分析させることの有効性を示唆するものと考えられる。

### c. 【大局力】7 時間目

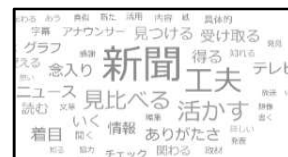
プレゼン発表を行うことで、情報を伝えることの楽しさや難しさを実際に体験し、これからの生活の中で情報を受け取ったり伝えたりするうえで自分たちにできることを考えることをねらいとした。発表する側、聞く側それぞれのポ

イントを提示した。内容やまとめ方など、学級全員に紹介したい人を4人選び、4人それぞれのよさを見つける機会を設定した。また、ワークシートに「これからの自分」という欄を設け、自分の生活と関連付けて情報の受け取り方・活用の仕方を考えることができるようにした。



【図2】よさを伝え合う活動

「新聞のよさが分かったから新聞も活用していきたい」「情報を得る時は、よく見て工夫している点を見つけていきたい」「テレビと新聞両方を見比べて情報を受け取りたい」といった、学習したことをもとにこれからの実生活で実行できる意見を書いている子供の姿が見られた。また、情報活用に関する記述内容を「ユーザーローカル AI テキストマイニング」で分析したところ、「新聞」「見比べる」「文章」「読む」等、授業の最初には少なかった新聞を活用したいという記述が多く見られた。



【図3】情報活用に関する記述

このことは、これから自分たちにできることを考え、実行していこうという思いをもつことができ、情報の伝え方やメディアの動きを通じて社会と自分たちの生活とのつながりに気づかせることができた点において有効であった。

## 4 成果(○)と課題(●)

- よさを伝えるためのポイントを提示したところ、子供が思考体力の一部を活用して情報をまとめることができていた。
- 終末の“これからは”というまとめの部分では、単元の最初に関心の少なかった新聞に着目したり、活用していきたいという子供が増えたりし、社会への関わり方に積極性が見られた。
- 学習を通して懸命に取り組んだ点や意識した部分を、キーワードを用いて振り返りをさせ、自己の学びの深化や社会との関連を見つけていくための手立てが必要である。

### 主な引用・参考文献

- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会科編』
- ・西成活裕(2011)『東大人気教授が教える 思考体力を鍛える』(2021)『東大教授の考え続ける力がつく思考習慣』あさ出版
- ・澤井陽介、加藤寿朗(2017)『見方・考え方[社会科編]』東洋館出版社
- ・鈴木篤喜(2020)『小学校社会科における、「社会的な見方・考え方」を意識して働かせ、意欲的に学習に向かうことのできる児童の育成—教材研究シート『MKH シート』の作成と実践を通して—』